

## 大阪の学力後進国からの脱出を目指せ

社会班：辻村 貴大

### 要約

この研究は、大阪府の学生が勉強ができないと言われる原因を調査し、解決策を提示するために行われた。着眼点は小学生の全国学力状況調査と平均収入で、下位から順に並べたときに共通して表れる市を様々な観点から分析した。

### Abstract

This research has conducted to find a way to improve academic ability of Osaka prefecture. The viewpoints of this survey was the results of academic examination and average income. Then I arranged cities in ascending order and analysed them from various perspectives.

### 1. 序論

大阪府の学生は勉強ができないと長い間言われていたので、その理由に興味を持った。そして、この状況をどうしたら改善できるのかを検証した。

### 2. 研究手法

平成 24 年度の小学生の大阪府の全国学力状況調査の結果（国語 A, 国語 B, 算数 A, 算数 B）と平均収入を市別に調査し、下位から順に並べたときに共通して表れる市を分析した。分析内容は、その市の人口構成、世帯数、平均収入、主要産業、生活保護受給率である。これらから下位に位置する市の特徴を分析する。さらに全国学力状況調査の成績が上位の県と同じ条件で比較した。

### 3. 結果

平成 24 年度全国学力状況調査の市別の結果より、各教科の平均点を算出、下位から順に忠岡町、摂津市、岸和田市、門真市、四條畷市、岬町、守口市、東大阪市、羽曳野市、太子町、泉佐野市、富田林市となった。また、平均収入の低い順から能勢町、千早赤阪村、岬町、泉南市、門真市、忠岡町、田尻町、大東市、松原市、阪南市、寝屋川市、岸和田市となり、学力調査と平均収入の下位 12 位で共通して表れるのは、門真市、忠岡町、岸和田市、岬町であった。この中から岸和田市を代表として分析した。なぜなら、岸和田市は人口が多く、大都市に近接していたからである。岸和田市は人口 108285 人（0~14, 13086 人、15~64, 66425 人、65~, 28774 人）の都市である。産業構造は第二次産業と第三次産業がほぼ 100%を占める。そして 1 人親家庭は 2004 世帯で生活保護受給世帯は 4312 世帯で全体の 3.046%を占める。

門真市は人口が121429人（0～14, 12266人、15～64, 73402人、65～ 35761人）で、産業構造の全てを第二次産業と第三次産業が占めている。1人親家庭の世帯数は1431世帯で、生活保護受給世帯は4596世帯、全体の4.93%であった。

富山県は人口が1065933人（0～14, 132886人、15～64, 61612465～316923）で、平均収入が439万7600円であった。1人親家庭の世帯数は7875世帯で、1.94%であった。そして、生活保護受給家庭は1632220世帯で1.71%だった。

#### 4. 考察

これらの調査からわかったことは、岸和田市や門真市と比べて富山県では第三次産業より第二次産業に従事する人が多く、1人親家庭の世帯数が少なく、生活保護受給率も低いことである。一般的に、第二次産業の職業に従事する人は第三次産業に比べて離職率が低い。なぜなら、第三次産業はサービス業や商業のため、立場が不安定だからである。それに対し第二次産業は製造業のため需要は一定数あるので離職せざるを得ないようなことになる人が少ない。したがって第二次産業に従事する人の方が平均収入が多くなる。なぜ富山県と岸和田市や門真市ではこのような差が出るのか。富山県では、三世帯住宅に住む人が多く、保育園の待機児童が少ない。つまり、親が働いているときには、子供に必ず祖父母が付き添っていることで子供に十分な教育を与えることができる。これらの理由から、大阪府の学生が勉強を出来るようになるには収入の安定化と幼少時の家庭での過ごし方が重要となることが分かる。よって、大阪府の学力向上には第二次産業の誘致と多世代住宅に住む家庭の増加が必要である。しかし、富山県において第二次産業が盛んなのは製造業に必要なきれいな水のような条件が揃っているからである。そのような条件が大阪府には揃っていないので第二次産業を発展させるのには少々無理がある。さらに多世代住宅に住もうとしても大阪府に住む人のなかには他都道府県から来る人が多いので、これらの条件を実現することは難しい。

#### 5. 結論

学力向上には安定した収入と幼少期の家庭環境の向上が必要である。大阪府がこのような条件を手にいれようとする、地理的なことや歴史的な理由で課題が残る。

#### 6. 参考文献

岸和田市 HP、門真市 HP、富山県 HP